

(3) 2011年(平成23年)10月27日(木曜日)

第6回OCHISセミナー

健康起因の事故防止へ

講演と討論で意識高揚

健康管理で運輸関連業界の事故防止を提案するNPO大阪ヘルスケアネットワーク普及推進機構(OCHIS)は13日、大阪市北区の大阪大学中之島センターの佐治敬三メモリアルホールで第6回「OCHISセミナー」を開催した(写真)。トラック、バスなど運輸業界の事業者、運行管理者らが70人を超えて参加し、健康起因事故の現状を踏まえた講演とディスカッションで労働者の健康管

理の重要性についてあらためて認識を深めた。

セミナーは、OCHIS理事長で阪大名誉教授の武田裕・滋慶医療科学大学院大学研究科長が「SAS(睡眠時無呼吸症候群)とメンタルヘルスの現状と対策」をテーマに講演した。

武田理事長は、ストレス要因の増大が労働災害などにつながっていることを指摘。労働者の心の健康状態の現状からメン

タルヘルスの重要性、社内でのケア対策の体制づくりの必要性などを強調した。

作本貞子理事は、OCHISがSASのスクリーニング検査時に実施してきた4万人の受診者へのアンケート結果から、睡眠の実態と生活習慣から危険性をあぶり出したデータを紹介した上で、SAS検査後のフォローの重要性を訴え、今後データが業界での対策などで活用されることを期待した。



このほか、全日本トラック協会の高安茂労働部長、交通労連関西地方総支部の早崎正憲執行委員長も、最近の労働問題、事故がなくなる労使関係の構築など、報告と説明をした。